

2020年5月

新型コロナウイルスの影響で学校への登校ができない状況が続いていますが、みなさんはお家でどのように過ごしていますか？ ぜひ本を読んで、想像力を高めて思いやりを忘れないでほしいと感じます。

今回はナチュラリストで作家のサイ・モンゴメリーさんの本をご紹介しますと思います。全米でベストセラーにもなった『動物たちが教えてくれた「良い生き物」になる方法』サイ・モンゴメリー著 古草秀子訳 河出書房新社 2019 年です。

1章ではスコティッシュテリア、2章では三羽のエミュー、3章では豚、4章ではタランチュラ、5章ではオコジョ、6章ではボーダーコリー（テス）、7章ではキノボリカンガルー、8章ではボーダーコリー（サリー）、9章ではミズダコ、10章ではボーダーコリー（サーバー）の10章から構成されています。この本は、今まで著者に影響を与えた動物たちとの思い出とそれぞれから学んだことが書かれています。

私が特に印象に残ったのは二つあります。それは、3章の豚のクリストファーと9章のミズダコのオクタヴィアです。愛は素晴らしいことであることが改めてわかります。そして、感謝をすることも忘れてはならないと感じました。

まず、3章のクリストファーは、心がとても大きく、陽気で好奇心旺盛、コミュニケーション能力がある豚です。また、とても外交的な性格のため、近隣・知り合いともクリストファーを通して仲良くなれたのだそうです。「彼は愛することを教えてくれた。生が与えてくれるすべてを愛することを。」と著者はクリストファーについて述べています。

次に、9章を読んでいて、250種類以上のタコが生息していることにまず驚きました。また、タコは卵を生むと卵のそばを離れず、食べる時間も惜しんで世話をするのだそうです。自然界では、卵を産んだタコは餌をさがしに出ることなく、最後には飢えて死を迎えるです。献身的な姿から、著者は「彼女（ミズダコのオクタヴィア）の世話の一つひとつや、しっかりと卵を守っている姿に、いにしえから続く生き物の愛の原型を見た。無数の母親たちがオクタヴィアの祖先であるゼラチン状の生き物から、私の母にいたるまでわが子に愛することを教え、愛は最高であり生きるうえでもっとも大切だと教えてきた。愛はそのものが重要であると同時に、その対象に価値をもたらす。」と語っています。

また著者は「良い生き物になるための道のりには、学ぶべきことがまだまだあるのだと、たちまちわかった。たとえどれほど絶望的に思ってもつぎに何が起こるのかはだれも知らない、ということだ。すぐその角を曲がれば、素晴らしい出来事が待っているかもしれないのだ。」と語っています。現在、新型コロナウイルスで暗いニュースを聞きますが、いかなる時もポジティブに考えることは苦境を乗り越えるための必要な術なのかもしれません。

